頑張る農業法人

農業生産法人 ㈱farmu labor 農希

綾部市

地域農業の担い手に ブランド京野菜挑戦も

福知山市在住の市田幸司さん（34）は会社を退職後、綾部市今田町での就農を機に、友人となった当地の先輩農家2人と2007年6月、農業生産法人「株式会社ｆａｒｍｕ ｌａｂｏｒ農希」（ファームレーバーのうき）を設立した。

地域の高齢化が進む中、同社の取り組みが地元農家の信頼を得て年々経営面積を拡大。現在は6㌶で水稲を栽培し、JA京都にのくにに出荷するほか、ハウス18棟でJAから水稲育苗の委託を受けるなど、JAと共に地域農業の担い手を目指している。

□　□

市田さんは福知山市六人部地区の農家で育ち、運送会社に勤務していた。勤め先でJAの肥料や農薬、水稲苗などを綾部市内に配達していたことから、同町の農家2人と友人になり、実家で手伝っていた農業に関心を持ち始めた。その後、彼らと同地域で農業に取り組もうと決意した。07年に退職して農地1・3㌶を借り受け、ハウスを設置。友人2人や同JAのTAC（地域農業の担い手に出向く担当）の応援を受け、水稲育苗や特産の「万願寺甘とう」などの栽培を始めた。

その後、大型農機の導入や農地拡大を図るため、友人2人と農業生産法人の設立に踏み切った。

社名の「農希」には、地域農家の応援を受けて農業の振興を図り、農業への希望を高めようという思いを込めた。

取締役社長に市田さんが、友人の永井寿広さんと村上弘一さんが取締役となり、農繁期にはアルバイト1人を雇用する。

□　□

法人化と合わせて3人の農業経営に対する取り組みが周囲の信頼を高め、高齢化で耕作が続けられなくなった農家や営農組織から、農地を預かってほしいとの声が寄せられるようになった。同社で大型田植機を購入し、トラクターやコンバインはリース対応で6㌶まで規模拡大を実現した。

主食用米の「コシヒカリ」の生産のほか、今年度から加工用米の生産に取り組む。ハウスも18棟に増やし、JA委託の水稲苗2万枚と同社用に6000枚の育苗を行う。育苗後の2棟で「万願寺甘とう」を生産し、全てJAに出荷する。

□　□

市田さんは「JAのTACの熱心な指導で、経営もなんとか軌道に乗せることができ、農地集積を進めることができた。

大型農機の導入や人手確保が今後の課題だが、ブランド京野菜の生産にも挑戦し、地域農業の振興に一役を担っていけるように頑張りたい」と話す。

▽法人所在地＝綾部市今田町立石42。電話＝0773（48）0339。

水稲育苗や「万願寺甘とう」のハウスを背景にする市田さん